

平成 26 年 5 月 29 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531235

研究課題名(和文) 柳田国男監修高等学校国語科教科書所収教材の連携的研究

研究課題名(英文) A cooperation study on teaching materials by which carried was carried out to the Japanese textbook of a high school which Yanagita supervised

研究代表者

佐野 比呂己 (SANO, HIROMI)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：60455699

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：これまで研究されてこなかった柳田国男監修高等学校国語科教科書について、その所収教材を中心に研究を進めてきた。所収教材そのものを分析、考察するとともに、分析・考察をもとに、研究協力者である高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を行った。実践を検討する中で、教材としての有用性、問題点を抽出し、教材価値の検討を行い、時代は経過しても現代の高校生国語教室において価値ある教材であるという共通認識を持ち、実践研究報告を学術雑誌に投稿、掲載された。

研究成果の概要(英文)：A study on the Yanagita editorial-supervision high school Japanese textbook which was not studied has so far been advanced centering on the teaching materials carried. While analyzing and considering the carried teaching materials themselves, it had a class in high school Japanese based on an analysis and consideration by cooperation with the teacher who is a research partnership person. While considering the lesson, usefulness as teaching materials and a problem were extracted and teaching-materials value was examined. Even if the time passed, it had the common view that they were valuable teaching materials in present-day high school Japanese education. The report of these lessons contributed to the scientific journal, and was published.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：柳田国男 国語科教材 随筆 高大連携 昭和30年代

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 柳田国男は教育に関する論考を多く残してはいる。しかし、教育学の視点からは十分な分析・考察が試みられていないのが現状である。たとえば、長浜功氏は柳田を「新しい思考を備えた教育学者」と高く評価している。一方で、日本の教育学が「柳田と遠い距離にあったという事実」を指摘し、柳田の考えを教育学に生かすことを提言している。

実は、柳田は教育学のみならず国語科教育においても強い関心を示している。戦前より『国語の将来』をはじめとする国語教育に関する論考を多く残し、戦後には小学校から高等学校までの国語科教科書づくりに積極的に参加している。

(2) 日本の教育学が柳田と遠い距離にあったと同様に、柳田の国語教育論に関する研究についても、十分になされていないのが現状である。特に国語科教育の領域からの研究は少なく、小山清氏、小久保美子氏、応募者の研究がわずかにみられるだけである。

しかし、いずれも柳田の国語教育論をその著作から明らかにしようとするものであり、実際の教科書から明らかにしようとするものではない。教科書そのものの研究については、民俗学や教育学の領域からわずかに見られるだけであり、国語科教育の領域からは応募者の研究のみである。

また、柳田国男監修国語科教科書については、研究代表者の他には民俗学の視点から杉本仁氏、田中正明氏の研究が見られるだけである。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、柳田国男監修検定高等学校国語科教科書(以下、「柳田教科書」と略す)所収教材を分析し、「柳田教科書」所収教材の価値を検討するとともに、高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を通して、その現代的意義を考察することを目的とする。「柳田教科書」所収教材、授業、そこで培われる学力、加えて現代的価値を高大連携により検討し、教材開発・選択の観点、教材からの授業の構想を提言し、新時代における国語教室の活性化に寄与することを目的とする。

(2) 柳田は高等学校国語科教科書づくりに、なみなみならぬ情熱を燃やす。大藤時彦「柳田先生と国語教育」(『教室の窓』昭和37年10月7ページ)によれば、教材選択、単元構成などにも柳田は主体的に自ら取り組んだという。

(3) 研究代表者は、柳田の国語観、国語教育論について発表し、その特徴を明らかにしてきた。しかし、柳田の著作は多岐にわたり、十分整理できたといえないのが現状である。一方で、柳田の論理は晦渋であり、理解に窮

する場面にも多く出くわした。

(4) 出版物として、昭和30年代という文脈から、教科書を考えたとき、学習者にとって今よりもそれが大きな存在であったことは容易に想像できる。

現在では自主教材や附属資料を作成した場合、容易に印刷が可能である。しかし、当時はかなりの労力が必要であったろう。また、学習者にとって、当時の出版状況から考えるに、教科書は出版物としても価値が高かったであろう。当時の学習内容は教科書によって支えられているといっても過言ではない。特に、柳田が監修する国語科教科書は小学校では、昭和26年度(1951)に全国において過半数のシェアを得たというのであるから、日本中のかなりの数の学習者が小学校においては柳田の監修した国語科教科書の教材を読んだということになる。柳田の国語科教育に与えた影響がいかに大きいものがあるのか、うかがえるところである。

(5) 「柳田教科書」を研究すること自体が、昭和30年代の国語科教育を検討することにつながるものであり、当時の学習者にどのような教育がなされたのかを考察する上で意義のあるものである。

加えて、「柳田教科書」を柳田国男の晩年の仕事と考えた場合、柳田の国語観、国語教育論、教育観が教科書の中に具体像としてどのように反映されているのかを確認することによって、柳田の思想の一端を明らかにすることができるものである。加えて、現代において教材選択、単元構成等に取り組む上で、大きな示唆を与えるものである。

(6) 現代は、今まで体験したことのない変動の時期を迎えている。日本人とは何かを問いつづけた柳田を研究する意味はますます高まっている。戦後の混乱期に、時代をどのようにとらえ、教育を、教科としての国語をどのように展開していったかを考察することは、現代の教育、教科としての国語を参照する営為があると確信する。

## 3. 研究の方法

(1) 「柳田教科書」所収教材を研究対象とするが、全ての教材を取り扱うことは困難である。したがって、本研究では随筆教材を中心に挙げる。研究期間内の具体的な作業は、「柳田教科書」所収教材の分析・考察、研究協力者による授業実践、教材価値の検討、研究成果の報告の4項目によって構成される。は研究代表者が担当し、研究分担者が補助する。は研究協力者が担当する。は研究代表者が担当し、研究分担者、研究協力者が補助する。は研究組織全体で行う。

(2) 「柳田教科書」所収教材を一つずつ分

析していく。具体的には、中途段階にある「ろくをさばく」(三淵忠彦)「地図をいどる」(籙木清方)の研究を進める。引き続き、「かみなりさま談義」(東条操)についても分析・考察を進める。全ての文章は、他社教科書には採用されておらず、「柳田教科書」のみに所収されている教材である。「柳田教科書」の特質を検討する上で有効であり、柳田の国語教育論を考察する上でも重要であると考え。「ろくをさばく」(三淵忠彦)の原典である『世間と人間』(朝日新聞社 昭和25年)からは、績文堂高等学校教科書に「鹿を犬にした話」、池田教科書出版中学校教科書に「規律を守る心」がそれぞれ採録されている。「鹿を犬にした話」と「ろくをさばく」を比較検討し、柳田の教材選択の特徴に迫っていきたい。加えて、当時の時代背景、学習指導要領、教科書改訂等を踏まえ、「柳田教科書」の特質に迫る。「柳田教科書」研究に業績のある研究代表者が担当し、研究分担者が補助する。

(3) 研究代表者の教材分析を生かし、高大連携により高等学校国語科の授業で実践し、その成果と課題を検証する。具体的には4名の高等学校教員を研究協力者とし、「柳田教科書」所収教材を使い、実際の教室で実践していただく。授業後、その成果と課題を検証する。

(4) 「柳田教科書」所収教材を学力の視点から再検討を試みる。具体的には、昭和30年代という文脈から当時の学習者が当該教材を学習することを通して、どのような学力が形成されるのか考察する。また、実際の高等学校における授業を参観し、現代の学習者にとってどのような部分で有効か検証する。昭和20年代から昭和40年代の学力問題に業績のある研究分担者が中心に行い、研究代表者が補助する。

#### 4. 研究成果

##### (1)平成23年度

「柳田教科書」所収教材から「ろくをさばく」(三淵忠彦)「かみなりさま談義」(東条操)を分析、考察した。また、「ろくをさばく」の筆者である三淵忠彦の『世間と人間』(朝日新聞社)についても取り上げ、他の教科書に所収された「鹿を犬にした話」に重点的に取り組んだ。

また、柳田教科書所収教材の中から「大蛇・小蛇」(片山広子)を取り上げ、研究協力者である高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を行った。実践に取り組むに際し、事前に日程打ち合わせ、教材研究会を行い、授業後には実践検討会を行った。実践報告から、教材としての有用性、問題点を抽出し、教材価値の検討を行った。時代は経過しても現代の高校生の国語教室に

おいて価値ある教材であるという共通認識を持った。

浜本純逸氏、小山清氏からは専門的知識を提供していただき、今後の研究の方向性、研究に資する資料の提示等、ご指導いただいた。柳田がどのような意図を持って、教材選択に至ったのかを精査すべきであり、そのためには柳田の思想そのものを理解し、そこと関連づけながら考察する必要がある。

今年度の研究成果は、学術雑誌、学内紀要に投稿し、計4編の論文が掲載されるに至った。「ろくをさばく」については一応の研究を完了することができた。「かみなりさま談義」及び「鹿を犬にした話」は研究の端緒にたどりついたところである。また、高大連携により取り組んだ「大蛇・小蛇」の実践研究報告についても下記の3編の論文が学術雑誌に掲載された。

花坂歩、古典における探求活動及び評価の実践：片山広子『大蛇・小蛇』を教材として、国語論集、査読無、第9号、2012年、323-335頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7427/1/kokugoronsyu-9-323-335.pdf>

太田幸夫、「大蛇・小蛇」授業実践：古典分野での現代文実践の可能性、国語論集、査読無、第9号、2012年、336-343頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7408/1/kokugoronsyu-9-344-349.pdf>

大村勅夫、読解の深化に向けた「大蛇・小蛇」の授業：主題把握に向けて表現に注目する、国語論集、査読無、第9号、2012年、344-349頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7408/1/kokugoronsyu-9-344-349.pdf>

##### (2)平成24年度

「柳田教科書」所収教材から「地図をいどる」(籙木清方)を分析、考察した。また、「ろくをさばく」(三淵忠彦)の関連教材である「鹿を犬にした話」(三淵忠彦)についても検討した。

また、柳田教科書所収教材の中から「浅春随筆」(柄内吉彦)を取り上げ、研究協力者である高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を行った。実践に取り組むに際し、事前に日程打ち合わせ、教材研究会を行い、授業後には実践検討会を行った。実践報告から、教材としての有用性、問題点を抽出し、教材価値の検討を行った。時代は経過しても現代の高校生の国語教室において価値ある教材であるという共通認識を持った。

田近洵一氏、小原俊氏からは専門的知識を提供していただき、今後の研究の方向性、研究に資する資料の提示等、ご指導いただいた。読み の教育の観点から現代の教材と比較

するとともに現代の高校生に教材を提示する意義が確認できた。加えて、「浅春随筆」のように地域を扱った教材は北海道のみで検証するだけで終わらせるだけでなく、研究について全国的に展開すべきであり、そのためには優れた教材を広く知らせる必要がある。

「柳田教科書」の全体像についても考察し、教科書出版の背景も明らかにした。

学術雑誌、学内紀要に投稿し、計5編の論文が掲載され、加えて全国的な学会でも発表を行った。また、高大連携により取り組んだ「浅春随筆」「大蛇・小蛇」の実践研究報告についても下記の7編の論文が学術雑誌に掲載された。

谷口守、授業「大蛇・小蛇」実践と考察：「恋しい蛇」の力、国語論集、査読無、第10号、2013年、273-278頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7462/1/kokugoronsyu-10-273-278.pdf>

増子優二、「浅春随筆」に於ける表現指導の研究：生徒の感想文を如何に分析・解釈するか、国語論集、査読無、第10号、2013年、279-290頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7458/1/kokugoronsyu-10-279-290.pdf>

花坂歩、読みにおける「転移」と「想起」：「浅春随筆」を教材に、国語論集、査読無、第10号、2013年、291-299頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7460/1/kokugoronsyu-10-291-299.pdf>

菅原利晃、「浅春随筆」の授業：随筆について5W1Hをもとにまとめよう、国語論集、査読無、第10号、2013年、300-314頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7440/1/kokugoronsyu-10-300-314.pdf>

太田幸夫、『浅春随筆』の教材としての可能性：二十一世紀における随筆の「読み」の可能性を探る、国語論集、査読無、第10号、2013年、315-320頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7444/1/kokugoronsyu-10-315-320.pdf>

大村勅夫、豊かな読解の力の育成に向けた単元の提案：過去の教科書教材を活用する、国語論集、査読無、第10号、2013年、321-325頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7446/1/kokugoronsyu-10-321-325.pdf>

谷口守、授業「浅春随筆」実践と考察：「最後の五文」をめぐる、国語論集、査読無、第10号、2013年、326-335頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7451/1/kokugoronsyu-10-326-335.pdf>

### (3)平成25年度

「柳田教科書」所収教材から「地図をいるどる」( 鍋木清方 )、「かみなりさま談義」( 東条操 ) を分析、考察した。また、「ろくをさばく」( 三淵忠彦 ) の関連教材である「鹿を犬にした話」( 三淵忠彦 ) についても検討した。

また、柳田教科書所収教材の中から「ろくをさばく」を取り上げ、研究協力者である高等学校教員との連携により高等学校国語教室での実践を行った。実践に取り組むに際し、事前に日程打ち合わせ、教材研究会を行い、授業後には実践検討会を行った。実践報告から、教材としての有用性、問題点を抽出し、教材価値の検討を行った。時代は経過しても現代の高校生の国語教室において価値ある教材であるという共通認識を持った。

嶋島甫氏、山下直氏からは専門的知識を提供していただき、今後の研究の方向性、研究に資する資料の提示等、ご指導いただいた。時代は経過しても現代の高校生の国語教室において価値ある教材であることが確認できた。

研究成果は、学術雑誌、学内紀要に投稿し、計4編の論文が掲載されるに至った。「地図をいるどる」については一応の研究を完了することができた。また、高大連携により取り組んだ「大蛇・小蛇」「ろくをさばく」「浅春随筆」の実践研究報告についても下記の7編の論文が学術雑誌に掲載された。

菅原利晃、教材「大蛇・小蛇」を用いたグループ学習：問題「各自の知っている動物説話をあげてみよ。」について、国語論集、査読無、第11号、2014年、205-218頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7489/1/kokugoronsyu-11-205-218.pdf>

花坂歩、間テキスト性に着目した学習材開発：「ろくをさばく」を用いた「羅生門」の運用、国語論集、査読無、第11号、2014年、219-227頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7481/1/kokugoronsyu-11-219-227.pdf>

太田幸夫、教材「ろくをさばく」実践に関する考察、国語論集、査読無、第11号、2014年、228-234頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7475/1/kokugoronsyu-11-228-234.pdf>

井口貴美子、『ろくをさばく』授業実践報告、国語論集、査読無、第11号、2014年、235-242頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7490/1/kokugoronsyu-11-235-242.pdf>

谷口守、授業「ろくをさばく」実践と考察：「法律の限界」の先に、国語論集、査読無、

第 11 号、2014 年、242-253 頁。  
<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7486/1/kokugoronsyu-11-243-253.pdf>  
大村勅夫、文章構成に着目させる単元の提案：教材開発として過去の教科書教材を活用する、国語論集、査読無、第 11 号、2014 年、254-259 頁。  
<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7488/1/kokugoronsyu-11-254-259.pdf>  
菅原利晃、栃内吉彦「浅春随筆」と小島烏水『日本山水論』、国語論集、査読無、第 11 号、2014 年、260-265 頁。  
<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7471/1/kokugoronsyu-11-260-265.pdf>

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 14 件)

本橋幸康、柳田国男編『国語』高等学校(昭和 30 ~ 33 年)における学習指導観、国語論集、査読無、第 12 号、2015 年、印刷中。

佐野比呂己、教材「かみなりさま談義」考(3)、国語論集、査読無、第 11 号、2014 年、67-76 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7478/1/kokugoronsyu-11-67-76.pdf>

佐野比呂己、教材「鹿を犬にした話」考(3)、国語論叢、査読無、第 2 号、2014 年 1-12 頁。

佐野比呂己、教材「かみなりさま談義」考(2)、北海道教育大学紀要(教育科学編)、査読無、第 64 巻第 2 号、2013 年、1-15 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7318/1/64-2-kyoiku-27.pdf>

佐野比呂己、教材「地図をいろいろ」考(5)、釧路論集、査読無、第 45 号、2013 年、1-9 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7293/1/kusiroron-45-16.pdf>

佐野比呂己、教材「地図をいろいろ」考(4)、国語論集、査読無、第 10 号、2013 年、79-97 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7449/1/kokugoronsyu-10-79-97.pdf>

佐野比呂己、教材「地図をいろいろ」考(3)、北海道教育大学紀要(教育科学編)、査読無、第 63 巻第 2 号、2013 年、1-16 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/6894/1/63-2-kyo>

iku-28.pdf

佐野比呂己、教材「鹿を犬にした話」考(2)、釧路論集、査読無、第 44 号、2012 年、1-17 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/6869>

佐野比呂己、柳田国男監修高等学校国語教科書の編集方針をめぐる、国語教育史研究、査読有、第 13 号、2012 年、1-10 頁。

佐野比呂己、教材「地図をいろいろ」考(2)、北海道教育大学紀要(教育科学編)、査読無、第 63 巻第 1 号、2012 年 9-21 頁 2012 年。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/6813/1/63-1-kyoiku-21.pdf>

佐野比呂己、教材「鹿を犬にした話」考(1)、国語論集、査読無、第 9 号、2012 年、81-100 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/7423/1/kokugoronsyu-9-81-100.pdf>

佐野比呂己、単元「人間とことば」の指導観、語学文学、査読無、第 50 号、2012 年 65-73 頁。

佐野比呂己、教材「ろくをさばく」考(8)、北海道教育大学紀要(教育科学編)、査読無、第 62 巻第 2 号、2012 年、1-13 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/2842/1/62-2-kyoiku-29.pdf>

佐野比呂己、教材「かみなりさま談義」考(1)、釧路論集、査読無、第 43 号、2011 年、1-14 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/2875/1/kusiroron-43-14.pdf>

佐野比呂己、教材「ろくをさばく」考(7)、北海道教育大学紀要(教育科学編)、査読無、第 62 巻第 1 号、2011 年、1-14 頁。

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/2418/1/62-1-kyoiku-24.pdf>

[学会発表](計 1 件)

佐野比呂己、柳田国男監修検定高等学校国語教科書の研究、第 122 回全国大学国語教育学会、2012 年 5 月 18 日、筑波大学

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐野比呂己 (SANO HIROMI)  
北海道教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：60455699

(2) 研究分担者

本橋幸康 (MOTOHASHI YUKIYASU)  
埼玉大学・教育学部・准教授

研究者番号：80386549

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

井口 貴美子 (IGUCHI KIMIKO)  
北海道室蘭栄高等学校・教諭 (前北海道根  
室高等学校・教諭)  
平成 25 年度

太田 幸夫 (OTA YUKIO)  
北海道石狩翔陽高等学校・教諭  
平成 23～25 年度

大村 勅夫 (OOMURA TOKIO)  
北海道旭川東高等学校・教諭  
平成 23～25 年度

菅原 利晃 (SUGAWARA TOSHIKI)  
北嶺中・高等学校・教諭  
平成 24、25 年度

花坂 歩 (HANASAKA AYUMU)  
大分大学教育福祉科学部・専任講師 (前北  
海道根室高等学校・教諭)  
平成 23～25 年度

谷口 守 (TANIGUCHI MAMORU)  
北海道札幌啓成高等学校・教諭  
平成 23～25 年度

増子 優二 (MASUKO YUUJI)  
北海道稚内高等学校・教諭 (前北海道留萌  
高等学校・教諭)  
平成 23、24 年度